

(様式1)

### 令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	(1) 心身ともに健康で、奉仕と協調の精神に富み、豊かな個性と「生きる力」を備えた人間の育成 (2) 自主的かつ意欲的に学業や課外活動に取り組み、絶えず学力と品性の向上に努める創造性豊かな人間の育成 (3) 国際化・情報化に対応する語学力、コミュニケーション能力、情報活用能力を備えた人間の育成
(2)現状と課題	多くの生徒が上級学校進学を志望していることから、学校活動の充実と学力の向上を図り、進路志望の達成率を向上させる必要がある。さらに、変化が激しく予測が難しい時代を逞しく生きるために、主体的に課題解決に取り組む、将来設計ができる生徒を育成する必要がある。
(3)重点目標	1 学習指導の充実 2 生徒指導の充実 3 進路指導の充実 4 教育相談・特別支援教育の充実 5 開かれた学校づくりの推進
(4)結果の公表	学校ホームページで公表する。

学校整理番号	11
学校名	青森県立八戸東高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和 8年 2月 2日 (月)
学校関係者評価実施日	令和 8年 2月10日 (火)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成	
地域住民	1名
保護者代表	1名
学校運営に資する活動を行う者	2名
地域教育関係者	2名
地域施設関係者	1名
	計7名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10)次年度への課題と改善策
1	学習指導の充実	①わかる授業を大切にし、生徒の学習意欲を高め、自主的学習の習慣化を図る。 ②ICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ③互見授業、研究授業、校内外の研修を通して、不断の授業改善を実践する。 ④言語活動を充実させ、授業に適切なアウトプット活動を取り入れる。 ⑤授業・読書を通じて読解力を高める。	①可能な限り授業交換や代替授業に努め、授業の継続性を重視し、授業アンケートを実施することにより授業改善に役立てている。また、学習意欲や家庭学習習慣は学年ごとに向上傾向にある。 ②ICT活用は授業改善の一環として進展しており、主体的・対話的で深い学びの基盤づくりが進んだと評価できる。 ③研究授業を軸とした研修や校内外の研修も実施され、一定の成果が見られた。 ④探究活動、小論文指導、志望理由書指導やHR活動での話し合い活動など、アウトプット活動の充実につながり、言語活動の強化が進んでいる。 ⑤朝読書、図書館便りや新着案内の発行など読書環境の整備が進み、読解力向上を支える基盤が強化された。	B	・探究学習（はちのへ創造学） 探究学習の成果は推薦入試で質問されることが多く、調査書にも記載している。代表班は県・SDGs・マイプロジェクト全国大会などで発表実績を評価する。 ・図書館の充実 書庫が少ないため随時入れ替えを行い、高校生が興味をもつ図書は十分に揃えている。 ・表現科の活動 八戸テレビで公演が放映され評価されている。DVDの広範な公開や販売については検討の余地がある。	・授業交換の制約が多く、十分に確保できない場面がある。授業交換の偏りを防ぐため、学年・分掌間で調整方法を改善する。 ・研究授業・互見授業の実施が十分でなく、授業改善の機会が限定されている。研究授業・互見授業の年間計画を明確化し、全教員が参観しやすい体制を整える。 ・ICT活用が進む一方で、準備・メンテナンスなど新たな業務負担が発生している。デジタル採点やICT校務の効率化を進めるため、AIの活用や役割分担の見直しを検討する。 ・「単元ごとの指導と評価の計画」の作成に差があり、学習評価の質にバラつきがある。「指導と評価の計画」の作成支援を強化し、全教科で評価の質を高める取り組みを継続する。
2	生徒指導の充実	①挨拶の励行、規則の遵守、他者を思いやる言動など「凡事徹底」を大切ににする。 ②いじめの未然防止・早期発見に努め、発生した場合は組織的に即時対応する。 ③部活動・学校行事・特別活動・ボランティア活動等を通して人間関係を形成する力、社会に参画する力、自己を生かす力を育成する。 ④発達支持的生徒指導（日々の生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話及び授業や行事等を通じた個と集団への働きかけを通して生徒の成長・発達を支える）を実践する。	①登校時の挨拶、服装の乱れは大きく見られず、衣替え期間の設定も適切に機能している。スマートフォンの休み時間の不適切使用が課題として残る。 ②HR活動でいじめ防止学習を実施し、生徒主体の防止策を考える機会を設定した。また、アンケートを計画通り実施し、未然防止・早期発見・組織的対応のサイクルが機能している。 ③体育祭・八東祭・八東杯などで、生徒の自主性を尊重しつつ、教員と協力して運営できた。また、外部団体との協働を通して社会参画力が育成されている。 ④生徒指導部（保健室）と学年が連携し、心身の不調や不安を抱える生徒に早期対応し、アンケートや日常の対話を通して、生徒が悩みを共有しやすい環境を整えている。また、必要に応じて外部機関と協力し、個別支援を実施した。	A	・スマートフォン使用ルール 平常時のスマートフォンの使用について、生徒自身に考えさせる場を設ける。 ・安全指導・通学路指導 送迎方法を保護者に案内すると共に、地域安全確保のために警察への速度取締りの依頼を提案。 ・地域ボランティア活動 依頼があれば生徒指導部から積極的に呼びかけているが、各種地域イベント（朝市・歩行者天国等）で生徒が活躍を高く評価する。	・あいさつや基本的な生活習慣に改善の余地がある。生活指導の統一ルールを明確化し、教員側からの声掛けを継続する。 ・スマートフォン等の情報端末の不適切使用が散見される。スマホの「ルールを守る指導」だけでなく「自分で使い方を考える機会」を設定する。 ・いじめや対人関係の悩みを抱える生徒が一定数存在する。いじめアンケートの継続実施と、教育相談・外部機関との連携を強化する。 ・部活動や行事の実施場所が地震被害で制限される見込みである。行事・部活動の場所変更に対応するため、早期に計画を提示し、生徒会と協働して準備する。
3	進路指導の充実	①3年間を見通した進路指導の実践と生徒の主体的な進路研究を奨励する。 ②面談、学年集会、講演会等を通して、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。 ③総合型・学校推薦型選抜の指導を組織的に行う。 ④難関大学合格に向けての生徒への働きかけと指導力の向上を図る。 ⑤全教員で「総合的な探究の時間」「はちのへ創造学」を推進し、地域資源や人材を活用する。	①小論文指導・年内入試指導・一般受験対策などを全教員で実施し、組織的な支援が行われたことにより、3年間を見通した体系的な進路指導が機能し、生徒の主体的な進路研究が進んだ。 ②進路講演会や説明会を例年通り実施し、進路意識向上に効果があったと考えられ、生徒・保護者・教員の三者で進路意識を高める取り組みが継続的に行われた。 ③総合型・推薦型選抜への対応は組織的に進んだが、負担の偏りが課題として残る。 ④出願書類の指導や面接対策を丁寧に実施するとともに、志望理由書指導に関する情報提供や研修会の実施により、教員の指導技術が向上したと言える。 ⑤外部団体との連携が増え、生徒が主体的に課題を設定し、地域と関わりながら探究を深めた。結果、探究活動が深化し、地域と連携した学びが定着してきている。	A	・進路多様化への対応 探究学習での成果が推薦入試等で評価される場合もある。 ・表現科の進路 芸術関係に進む生徒もいるが、教育・経済・保育など幅広い領域へ進学の周知。 ・就職支援 手厚いサポート体制（求人探し・履歴書指導・面接指導）の構築。	・全教員体制での指導は進んでいるが、特定学級への負担集中が課題である。国公立志願者と私立志願者の指導配分を見直し、教員の負担を平準化する。 ・進路指導室の閉鎖（地震の影響）により、資料閲覧環境が制限されている。進路資料のデジタル化や閲覧方法の改善を進める。 ・生徒の進路意識や学習習慣に差が生じている。キャリア教育（はちのへ創造学）をさらに充実させ、進路意識を早期に形成させる。 ・志望理由書作成・個別指導に時間と労力がかかっている。教員研修（入試動向・志望理由指導）を継続し、指導の質向上を図る。
4	教育相談・特別支援教育の充実	①生徒との日常的な対話、面談、行動観察から悩みを抱える生徒を早期発見し、一人一人に寄り添った教育相談・支援を行う。また、教育相談委員会を定期的に開催する。 ②特別な支援・配慮を必要とする生徒に対して、情報共有を図りながら対応する。	①日常的な観察と声掛け、面談や相談活動の継続により早期発見に努め、必要な生徒には学年・相談機関と連携した支援が行われた。ただし、教育相談委員会の開催頻度は改善の余地がある。 ②特別な支援が必要な生徒に対しては、学年・生徒指導部・保健室・外部機関が連携し、情報共有を基盤とした支援体制が機能していた。	B	・不登校傾向の生徒への対応 教室に入れない生徒への別室対応のできる体制づくり。	・心身に不調を抱える生徒への初期対応に時間がかかる場合がある。 ・保健室・学年・生徒指導部の連携体制を強化し、早期発見・早期対応を徹底する。 ・教育相談委員会の開催回数が不足している。教育相談委員会の開催回数を増やし、保護者からの情報も積極的に共有する。 ・地震後の清掃分担・安全点検など、環境面での再整備が必要である。清掃区域・安全点検ルールの見直しと教員指導体制の再構築する。 ・生徒の情報共有が十分でない場面がある。心理面の支援（スクールカウンセラー活用）を定期的なルーティンとして位置づける。
5	開かれた学校づくりの推進	①ホームページや学年・分掌通信等による積極的な情報発信と広報活動を行う。 ②保護者、外郭団体、諸関係機関と円滑な連携を図る。 ③コミュニティスクールを導入し、学校課題解決の方策や具体的な支援について協議する。	①学校の取り組みを外部分かりやすく伝える広報活動が概ね実施され、情報共有の質が向上した。 ②PTA・後援会・同窓会との連携を継続し、保護者・地域・関係機関との連携は円滑に進み、学校運営や生徒支援に効果的に活かされた。 ③学校運営協議会を適切に開催し、学校評価の分析や学校運営に関する意見を共有した。	A	・地域活動との連携 「はっち」の活動や地域の発掘事業に生徒が協力してくれており、地域イベントでの活躍が学校PRにもつながっている。 ・学校評価の向上に向けた課題 「八東らしさ」が保護者に見えにくいとの指摘を受け、教育目標の具体化を検討。	・PTA・後援会・同窓会と学校との連携強化が求められる。各団体との情報共有、行事への協働を進め、学校活動への参画機会を増やす。 ・予算減少により、事業運営の効率化が必要である。予算執行の透明性を確保しつつ、効果的な支出計画を策定する。 ・学校運営協議会開催に向けた調整や情報発信に課題がある。学校運営協議会の計画作成を早め、関係者調整を密に行う。 ・WEB・SNS・地域メディアなどを活用し、外部への発信力を高める。

(11)総括	本校は学校教育目標のもと、学習指導・生徒指導・進路指導・教育相談および特別支援教育・開かれた学校づくりの各領域において、組織的な取組を進めてきた。学習指導においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた基盤が強化された。互見授業や研修を通じた教員の指導力向上も一定の成果を挙げ、言語活動や読書活動の充実を通して、生徒の学習意欲および家庭学習習慣に向上傾向が見られた。一方で、授業交換や研究授業の実施体制、ICT活用に伴う業務負担、教科間における評価計画のばらつきなど、改善すべき課題も明らかとなった。生徒指導の面では、学校全体として安心・安全な教育環境づくりを推進した。しかし、スマートフォンの不適切使用、一部生徒への対人関係上の不安、地震被害による活動場所の制約など、継続的な支援や環境整備が求められる。進路指導においては、全教員体制による体系的な進路指導が浸透し、指導の質が向上した。総合的な探究の時間（はちのへ創造学）では、地域と連携した探究活動が深化し、成果が推薦入試等で評価されるなど良好な成果が見られた。教育相談・特別支援教育では、外部機関との連携による支援体制が機能した。ただし、初期対応に時間を要する場面や、教育相談委員会の開催頻度、生徒情報の共有体制など、組織的連携の強化が求められる。開かれた学校づくりの領域では、保護者や地域との連携、学校運営協議会の開催、広報活動の充実など、学校と地域が協働する取組が継続的に進展した。地域ボランティア活動や外部団体との協働は、生徒の社会参画力の向上に寄与している。これらの成果と課題を総合すると、本校は学校教育目標に向けて着実に前進している一方で、教員間の負担調整、ICT活用の効率化、地震被害に伴う環境整備、生徒の個別支援体制の強化など、学校運営上の重点的改善課題が浮き彫りとなった。次年度は、これらの課題に組織的かつ計画的に取り組み、生徒が安心して学び、自己実現を図ることのできる学校づくりを推進していく必要がある。
--------	--